

NUFSA 留学生の家族のための日本語・日本事情コース

国際教育交流センターアドバイジング部門

伊 藤 ゆ り

「留学生の家族のための日本語・日本事情コース」は、名古屋大学に在籍する留学生の家族を主な対象とした名古屋大学留学生会主催のコースである。国際教育交流センターアドバイジング部門アドバイジング・カウンセリング室はコースの運営に協力している。4月と10月の年2回開講し、インターナショナルレジデンス東山の地下会議室にて火曜日と木曜日の週2日、1時間半の授業を2コマずつ行っている。昭和62年（1987年）に開講したこのコースは、平成28年（2016年）度で30年目を迎えた。今年度は前期33名、後期28名の受講生が在籍した。授業を担当するのは日本語教育の専門知識と経験を持つ4人の日本語教師であり、授業の他にも会話練習やパーティー等の行事においても協力いただいている。アドバイジング部門は教師たちと緊密な連携を図りながら、コースのさらなる充実や問題点の改善に努めている。

コースの運営資金は受講料の他に、名古屋大学留学生後援会からの補助金と名古屋栄ライオンズクラブからの寄付により成り立っている。名古屋栄ライオンズクラブからは平成6年（1994年）秋より継続的な支援を受けており、支援を受けた受講生の人数は今年度で延べ2,052名となった。開講式やパーティー、会話練習へも会員の方々をお招きし、受講生との交流を深めていただいた。また、年に一度クラブの例会に2名の受講生をご招待いただき、受講生はスピーチにて学習の成果を披露している。

コースには幼児を抱える受講生も多く在籍し、彼らは受講中、地域のボランティアグループ「ひろば」による託児サービスを経済的負担なく利用できる。近年では名古屋大学の学生や留学生もボランティアグループのメンバーに加わりその活動をサポートしている。また、「ひろば」は授業外でも会話練習や各国料理を作る会を企画して下さっており、受講生にとって地域の方々との貴重な交流の場や地域社会との接点となっている。「ひろば」は、平成15年（2003年）から13年間、本コースでのボランティア活動を継続している。

また、三味線のワークショップも行った。三味線の先生三人による指導の後、全員で「佃の合方」を合奏し、日本の文化に触れる機会もあり、受講生に好評だった。

本コースは名古屋大学留学生会の主催企画として継続されてきたが、留学生の家族に対する支援も公的に行なうことが期待され、今後大学がより深く関わって整備していくことが求められる。今後も関係者の声を反映し、より充実したコースにしていきたい。

コース担当教師からの報告

このコースは、名古屋大学に在籍する留学生の家族を主な対象として、日本語指導をはじめ様々なサポートをする目的で30年前に開設され、今年度も出身国が11カ国にわたる受講生がこのコースに参加した。

前年度では全クラスでパワーポイントを使っただけの授業を採択するなど、大きく切り替えを図ったが、スライド中心では、とすれば単調な授業になってしまうという課題が残った。そこで今年度は、なるべく会話やペアワーク、作文など多岐に渡った活動を授業に取り入れるよう工夫を行った。週2回3時間という少ない授業数ということもあり、すぐに効果が現れるものではないが、今後も受講生が楽しく4技能（読む、書く、聞く、話す）をのばしていけるよう、教師は継続的に創意工夫をこらしていきたい。

また、このコースでは年に2回、名古屋栄ライオンズクラブの方々や、「ひろば」のメンバー、教師OBやアドバイジング部門のメンバーをお招きし、会話練習の日を設けている。以前は上級クラスだけのイベントであったが、近年は入門クラスも含め、コース全体の主要なイベントとなっている。この日は、受講生が教師以外と日本語で話す数少ない機会であり、また、彼らが自らの学習の成果を実感できる貴重な経験ともなっている。

今年度もこのように関係各機関の方々に支えていただきながら無事終えることができた。今後も受講生や関係者の声を反映して、より充実したコースを目指していきたい。

教師および担当クラス

岩崎陽子：前期2，4クラス（火）

後期2，3クラス（木）

國枝京子：前期1，3クラス（火）

後期2，3クラス（火）

邊見香苗：後期1，4クラス（木）

水野百々世：前期1，3クラス（木）

後期1，4クラス（火）

吉村智子：前期2，4クラス（木）



三味線のワークショップの様子